

Title	全国の地域スタートアップ・エコシステムにおけるインキュベーション拠点の役割
Author(s)	金間, 大介
Citation	年次学術大会講演要旨集, 37: 126-129
Issue Date	2022-10-29
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/18541
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

全国の地域スタートアップ・エコシステムにおける インキュベーション拠点の役割

○金間大介（金沢大学）

【概要】

世界的にスタートアップ・エコシステムの形成が促進されている。日本では、内閣府が2019年に策定した「世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点都市の形成」プログラムを基に、全国8か所のSES拠点の支援を開始した。EY Japanや経済産業省らは、地域・社会的課題の解決に取り組む地方起業家の育成を目的としたアクセラレーター・プログラムを2022年7月から開始している。その他、日本各地でコワーキング施設やインキュベーション施設が、多様な機関の主導の下で整備されている。そこで本研究では、地域経済の発展とスタートアップ・エコシステム形成に対するインキュベーション拠点の役割について、多数の現地調査やインタビューを通して明らかにしていく。

【本研究の目的・問題意識】

<日本における地域を主体としたスタートアップ・エコシステムへの注目度の拡大>

世界的にスタートアップ・エコシステム（SES）の形成が促進されている。そのような中、日本では、内閣府は2019年に策定した「世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点都市の形成」プログラムを基に、全国8か所のSES拠点の支援を開始した（内閣府, 2019）。また、EY Japanや経済産業省らは、地域・社会的課題の解決に取り組む地方起業家の育成、その事業の拡大、および地方創生に資することを目的としたアクセラレーター・プログラムを2022年7月から開始している。東北地方を起点として、6カ月にわたるプログラムにおいて起業家それぞれの特性・ニーズに合った人材・情報などを提供し、東北地方のスタートアップ・エコシステム形成と今後の事業拡大をサポートするとしている。

これらの例の他にも、日本各地でコワーキング施設やインキュベーション施設が自治体主導により整備されている（金間, 2021）。

<実務上の課題としての成功事例の模倣と当該地域の文化的・経済的特性の軽視>

このように世界的にSES形成が促進される中、Stam（2015）は、レビュー論文の中で、SESにおいては、学術研究が政策や実践に知見を提供するというよりもむしろ、政策や実践が研究を先導する状況になっていると指摘している。政策立案者は、費用対効果の高い地域経済振興のツールとしてSESのフレームワークに注目し、より繁栄している地域からベスト・プラクティスを輸入する傾向にある（Harrison and Leitch, 2010）。このようなアプローチは、SESが地域経済の発展にとって有効であり、そこへリソースを投下すれば、雇用創出や対内投資を通して地域社会全体の発展につながるという暗黙の前提の上に立脚している（Spigel et al., 2020）。

しかし、現実にはそれほど明確ではなく、例えば高成長のスタートアップと地域全体の繁栄との間にはほとんど関連性がないとする研究もある（e.g. Lee and Clarke, 2019; Lee and Rodriguez-Pose, 2021）。また、現時点では、スタートアップがもたらすリスクの増大や不安定さ、スタートアップが多数輩出されることの負の副作用が無視されることも多い（McNeill, 2016）。結果的に、表面的な議論に終始し、地域に眠る文化的・経済的特性を軽視したり、成功した地域の最も顕著な特徴をまねることに基づいた政策の同質化が蔓延することになる（Wurth et al., 2021）。

このことについて、Stam（2015）は、地域の条件やボトムアップ・プロセスを正確に理解することなしに、当該地域に持続発展可能なエコシステムを構築することは難しいことを挙げている。

<本研究の焦点：起業文化の醸成を狙いとされた複数の事例分析>

ただし、その「地域の条件やボトムアップ・プロセスを正確に理解」し、それに基づいた SES を形成することは、SES 研究全体の課題とする文献も多い (e.g. Guzman and Stern, 2016; Sotarauta et al., 2017; Malecki, 2018)。政策や実務面と同様、学術研究においてもベスト・プラクティスの特徴を特定することに過度な焦点が当てられ、特徴的な要素を抽出、羅列するだけで、原因と結果の関係や、それらの構造が特定の場所や歴史とどのように結びついているのかを明確に説明していない研究も多い (Stam and Ven, 2021)。

そこで本研究では、SES 形成過程における経路依存性に着目し、形成初期における地域との結びつきや、地域独自の資源や環境、文脈をどのように SES の形成に反映させるかを明らかにしていく。まだ日本には成功例と呼べる地域は少ないものの、発展途上にある複数の地域の事例を分析し、これらの地域における SES 形成過程を丁寧に可視化することで、地域に根ざした起業文化醸成の支援の在り方やプロセスの構築に資する知見の提供を目的とする。

【先行研究と本研究における学術的課題】

<スタートアップ・エコシステムの定義>

現時点において、SES に関する共通した定義は存在していない。本稿では、Spigel (2017) が示した「地域内の経済的、社会的、文化的、政治的、物理的要素の組合せであり、起業家がリスクの高い事業を立ち上げ、革新的なスタートアップの設立や成長に対し、資金や人的支援を含む様々なサポートを行う有機的な連携体」という定義が包括的であるため、これを採用する。

また、スタートアップについても一定の共通概念が必要となる。特に、経済成長に強い影響を与える新興企業に限定する場合と、より広い概念として新しく設立された企業全般を指す場合が混在している (Wong et al., 2005)。その中でも、これまでの SES 研究では、その対象を革新的で成長志向を持ってスケールアップするスタートアップに絞り込み、これを牽引する起業家こそがイノベーション創出や生産性向上の重要な源泉であると強調されてきた (World Economic Forum, 2013; Mason and Brown, 2014)。その理由として、若い起業家は雇用創出の原動力となること (Haltiwanger et al., 2013) や、古い産業から新しい産業への雇用の再編を加速させること (Bos and Stam, 2014) などが示されている。このようなスタートアップを含むエコシステムは、そのアウトプットとしてアントレプレナーシップに富む多種の活動を増加させ、最終的なアウトカムとして一定の経済的・社会的価値を生み出す (Stam and Ven, 2021)。

<スタートアップ・エコシステムの構成要素と文化>

地域における SES の形成が、いかにして地域レベルでの起業とその後の価値創造を可能にするかを示す研究はすでにいくつかある (Fritsch and Storey, 2014; Autio et al., 2014)。例えば、Mack and Mayer (2016) は、アリゾナ州フェニックスにおける初期の起業の成功が、目に見える成功事例、強い起業文化、支援的な公共政策に結びつくことで、持続的な SES の形成に貢献し、それが新たなスタートアップの創出に繋がっていることを示した。

2010 年代に入り、複数の研究が SES を構成する要素を提示しているが (e.g. Isenberg, 2010; World Economic Forum, 2013)、そのうち最も大局的に整理した例の 1 つとして、文化的属性、社会的属性、物質的属性の 3 区分がある (Spigel, 2017)。Stam (2015) がまとめた結果をさらに進化させたもので、後の理論的基盤の構築にも影響を与えている (Stam and Ven, 2021; Spigel and Harrison, 2018)。

ただし、こういった SES の属性や要素の相互作用は、スタートアップ支援政策に反映されていないことが多いと言う (Pugh et al., 2019)。最も多く見られる例は、基礎となる文化的、社会的属性を軽視した状態で物理的インフラに投資した結果、構築された拠点が空虚な不動産になってしまうケースである (Pugh et al., 2018)。

ここで言う文化的属性とは、地域における起業に対する基本的な信念や見通し、態度を表す。複数の研究において、地域固有の文化的属性が当該地域の起業プロセスにどのような影響を与えるかを検証し

てきた (e.g. Stuetzer et al 2014; Vaillant and Lafuente, 2007)。ポジティブな文化的属性を持つ地域は、起業家や他のアクターがハイリスクな事業活動に取り組む意欲を高める一方で、ネガティブな文化的属性を持つ地域は、安定した雇用を離れて起業家になることへの障壁を生み出す (Fritsch and Storey, 2014; Aoyama, 2009)。このように、地域の文化がアントレプレナーシップの規範や実践を許容し、支援することによって、起業家の意思決定や活動に大きな影響を与える (Aoyama, 2009)。

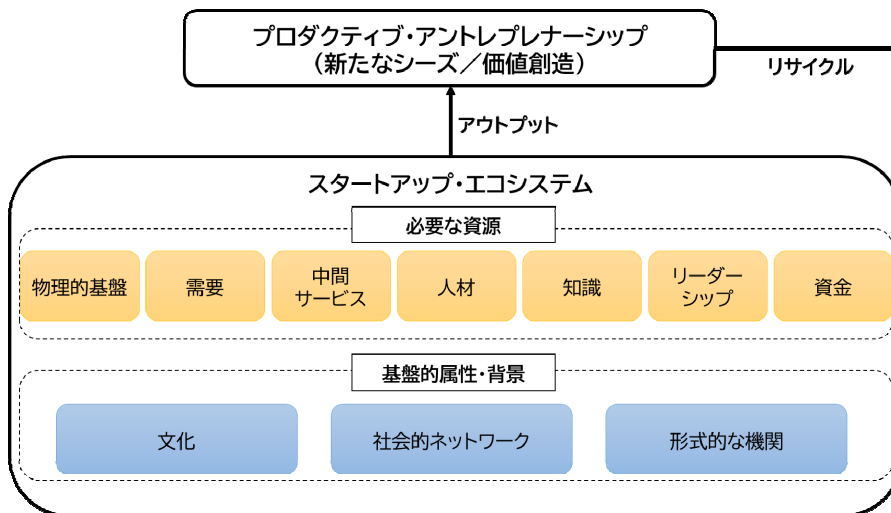


図1 スタートアップ・エコシステムにおける3つの基盤的属性と7つの資源 (Stam and Ven, 2021)

<起業文化醸成に資するサクセスストーリーの展開と起業家リサイクル>

このような文化は、当該地域における起業家のサクセスストーリーの存在と強く関連している。地域で成功している起業家の事例は、起業のメリットや可能性を議論する際のテキストとなり、高等教育終了後の若者のキャリアパスとしての可能性を示したり、若い起業家に同じような旅をするように促す (Feld, 2012)。これにより、新たな起業家を継続的に確保することができ、当該地域ではリスクを取ることが文化として許容されていく。

この中から地域にインパクトを与えるようなスタートアップが生み出されることで、モデル的な事例として地域内に広く知られる。結果的に、新興事業の発展に批判的だった既存企業の多くも徐々にその姿勢を緩和させ協力的な態度を取り始める (Brown and Mawson, 2019)。

実際にこれまでの研究では、特定の場所に長く住み、社会的つながりを深めた起業家は、新規参入者よりも成功する傾向があることが示されており、さらに成功して撤退した後もその地域に留まる傾向がある (Dahl and Sorenson, 2012; 福嶋, 2013)。このような傾向をアントレプレヌリアル・リサイクルと呼び、成功したスタートアップによって生み出された資本、知識、ネットワーク、ノウハウが次の世代の起業家へのメンターシップや投資を通して、SES 内に蓄積することを意味する (Mason and Harrison, 2006)。成功した起業家は、貴重な経験と正当性を得て、将来の活動のための支援や投資を集めることができる (Toft-Kehler et al., 2014)。特に、買収や IPO によるエグジットは、スピニアウトやストックオプションを保有していた従業員による投資活動を誘発し、起業家のリソースを SES 内にさらに広げることになる。このような循環が地域の起業家文化を構築、強化する (Feldman, 2001; Feldman, 2014)。

さらに、起業家がこれらの成果を十分に創出できなかったとしても、それらの活動自体や失敗の経験が後続者のための肥沃な土壌となったり、より効果的、効率的に活動するための触媒となることもある (Spigel and Vinodrai, 2021)。ただし、失敗したスタートアップから人材や知識を再利用するには、失敗を罰せず、むしろ学習経験として扱う文化が欠かせない。文化的態度が失敗を罰しすぎると、失敗に関係した起業家の知識やスキルを有効活用することができなくなる (Cardon et al., 2011)。また、このような文化を外部からの介入によって構築することは非常に困難であるとの指摘もある (Argote and

Miron-Spektor, 2011)。

以上の議論を踏まえ、本研究では、全国に点在する地域 SES の活動拠点とも言えるインキュベーション施設（図 2）を中心に、図 1 に示した 11 の要素を地域毎に抽出し、比較可能な状態まで分解した上で、共通点や類似点を体系的に整理していく。加えて、各地域におけるサクセスストーリーの有無やその展開の仕方によって、どのように当該地域の起業文化の醸成や起業家リサイクルの定着に影響を与えているかについて考察する。

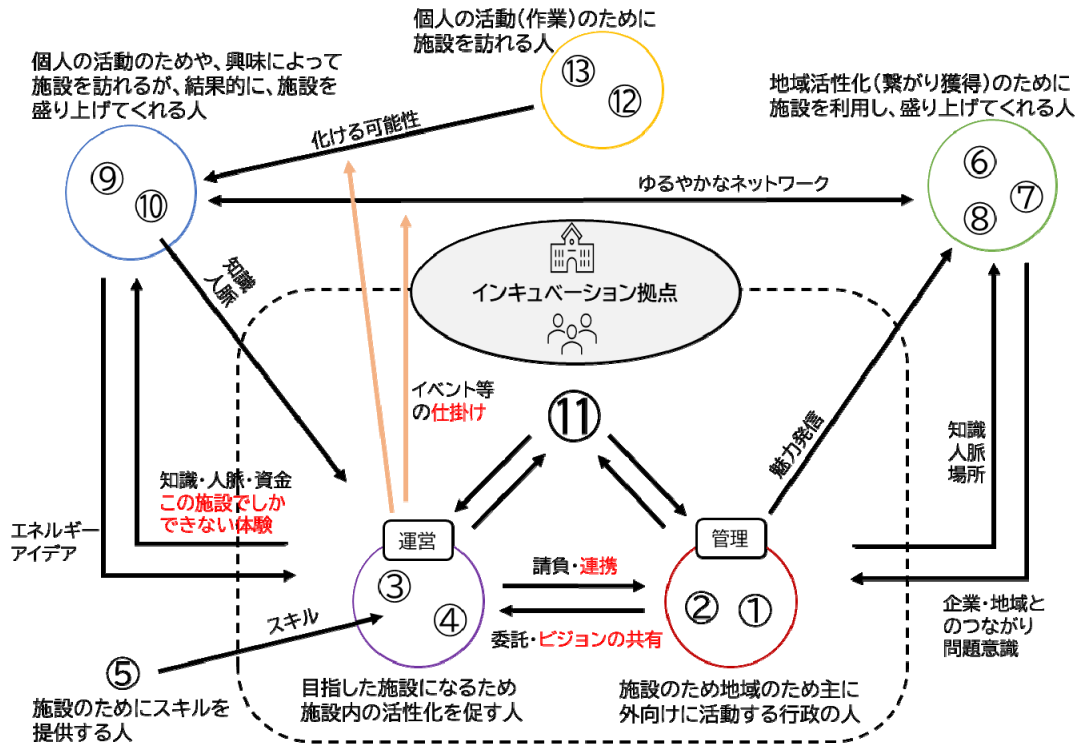


図 2 地域におけるインキュベーション拠点の基本的な機能

内閣府 (2019) 「Beyond Limits. Unlock Our Potential」
 金間大介 (2021) 研究・イノベーション学会第 36 回年次学術大会
 Stam, E. (2015). *European Planning Studies*, 23(9), 1759–1769.
 Harrison, R. T. and Leitch, C. (2010). *Regional Studies*, 44(9), 1241–1262.
 Spigel, B., Kitagawa, F. and Mason, C. (2020). *Local Economy*, 35(5), 482–495.
 Lee, N. and Clarke, S. (2019). *Research Policy*, 48(9), 103803.
 Lee, N. and Rodríguez-Pose, A. (2021). *Environment and Planning A: Economy and Space*, 53(1), 31–52.
 Wurth, B., Stam, E. and Spigel, B. (2021). *Entrepreneurship Theory and Practice*, 22th March, 2021.
 Guzman, J. and Stern, S. (2016). Cambridge: National Bureau of Economic Research (No. w22095).
 Stam, E. and Ven, A. (2021). *Small Business Economics*, 56, 809–832.
 Spigel, B. (2017). *Entrepreneurship Theory and Practice*, 41, 49–72.
 Wong, P. K., Ho, Y. P. and Autio, E. (2005). *Small Business Economics*, 24(3), 335–350.
 Haltiwanger, J., Jarmin, R. S. and Miranda, J. (2013). *Review of Economics and Statistics*, 95(2), 347–361.
 Bos, J. W. and Stam, E. (2014). *Industrial and Corporate Change*, 23(1), 145–169.
 Fritsch, M. and Storey, D. J. (2014). *Regional Studies*, 48, 939–954.
 Mack, E. and Mayer, H. (2016). *Urban Studies*, 53(10), 2118–2133.
 Isenberg, D. J. (2010). *Harvard Business Review*, 88, 40–50.
 Pugh, R., MacKenzie, N. G. and Jones-Evans, D. (2018). *Regional Studies*, 52(7), 1009–1020.
 Pugh, R., Soetanto, D., Jack, S. L. and Hamilton, E. (2019). *Small Business Economics*, 56, 833–847.
 Stuetzler, M., et al. (2014). *Small Business Economics*, 42(2), 221–244.
 Aoyama, Y. (2009). *Regional Studies*, 43, 495–512.
 Brown, R. and Mawson, S. (2019). *Cambridge Journal of Regions, Economy and Society*, 12(3), 347–368.
 福嶋路 (2013) 「ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ」 白桃書房
 Dahl, M. S. and Sorenson, O. (2012). *Management Science*, 58, 1059–1071.
 Toft-Kehler, R., Wennberg, K. and Kim, P. H. (2014). *Journal of Business Venturing*, 29(4), 453–470.
 Argote, L. and Miron-Spektor, E. (2011). *Organization Science*, 22, 1123–1137.